

調査の概要 9月末時点で上場する国内企業の中で、直近決算期の売上高が100億円以下の966社を対象(TOKYO RO Market上場企業、金融、決算期変更など除く)。直近決算で2期連続最終赤字の企業の2018年4~9月のPBRの平均値が高い順に並べた。平均値が算出できない今年4月以降に上場した企業は対象から除いた。

日本経済のけん引役として期待される「NEXT1000」を対象に、4~9月のPBR(株価純資産倍率)の平均をランキングしたところ、人工知能(AI)関連や情報サービスなどの企業が上位に並んだ。PBRにはブランドや独自のノウハウなどの「見えない価値」が反映されるといわれる。独自のビジネスモデルや技術が高い評価につながっているようだ。

4位 北の達人コーポレーション

ネット通販、広告に強み



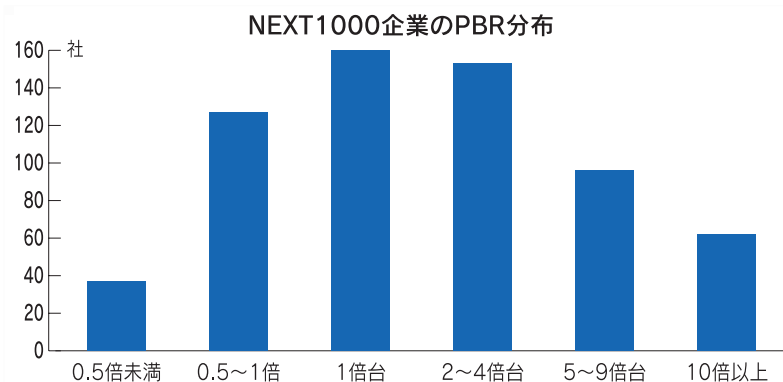
北の達人コーポレーションは健康食品や化粧品などのインターネット通信販売を手掛ける。商品の企画・販売に集中し製造は外部に委託する。写真。継続的なニーズを望める分野に絞った商品企画や、効率良く広告を配信する仕組みによる

顧客獲得に強みを持つ。

2016年から広告代理店など外部に委託していたネット広告の運用を自社に切り替えた。広告のクリック回数や購入につながった確率、平均単価などを詳細に分析。新規の顧客獲得にかけるコストを減らした。

9月の北海道地震による業務への影響はほとんどなかったという。事前に作成していた危機管理マニュアルが機能したほか、リスク管理のため主力商品の生産拠点を分散していたことも奏功した。

「見えない価値」が評価されている企業				
順位	社名	業容	2018年度上期のPBR平均(倍)	9月28日のPBR(倍)
1	RPAホールディングス	事務作業の自動化ソフト開発	49.9	37.7
2	ユーザベース	財務情報や経済ニュースを配信	46.0	52.5
3	ペプチドリーム	医薬品候補物質の創製	45.0	38.2
4	北の達人コーポレーション	健康食品・化粧品販売	43.2	38.1
4	ウォンテッドリー	ビジネス交流サイトの運営	43.2	48.2
6	弁護士ドットコム	法律相談サイトの運営	39.2	65.7
7	夢の街創造委員会	ネットで飲食物の出前受け付け	34.7	48.9
8	ジェイテックコーポレーション	理化学機器製造	30.5	15.5
9	SHIFT	ソフトウェアの品質保証	30.1	29.3
10	カナミックネットワーク	介護ソフト	29.5	32.3



許諾番号 30065735 日本経済新聞社が記事利用を許諾しています。

©日本経済新聞社 無断複製転載を禁じます。

日本経済新聞社は、記事内容により、特定の企業・団体や商品・サービスの購入・投資等を推奨するものではありません。